

第 4 期八戸ポータルミュージアム中期運営方針
－未来を創ろう 2030－

付 属 資 料（案）

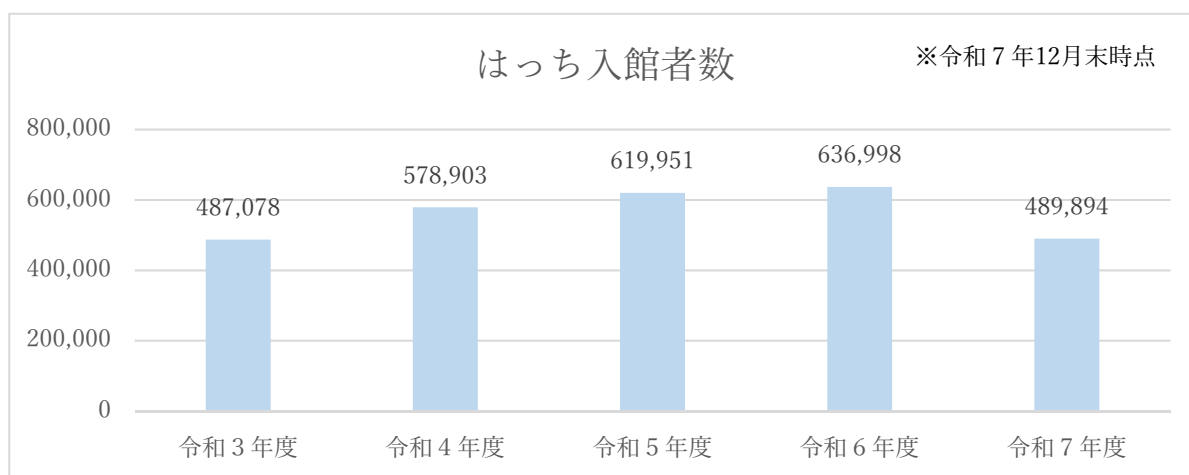
5 年間（令和 3 年度～ 7 年度）の実績や評価等

令和 8 年 3 月
八戸市

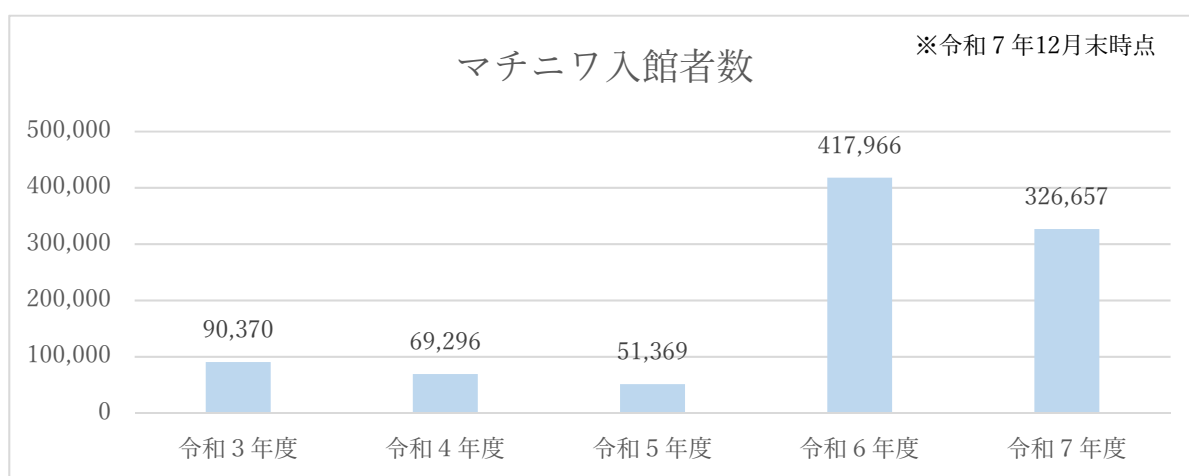
1. 入館数の推移	・・・	3
2. 施設利用件数の推移	・・・	4
3. 視察・見学の受入数の推移	・・・	5
4. 目指す「8つの未来」に沿った5年間の実績	・・・	6
5. 目指す「8つの未来」に沿った評価と今後の取組	・・・	18

1. 入館者数の推移

○令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年9月1日～9月30日に一部休館、令和4年1月26日～3月21日臨時休館していました。令和4年以降、入館者数は徐々に増加傾向にあります。また令和5年には入館者数1,000万人を達成しました。

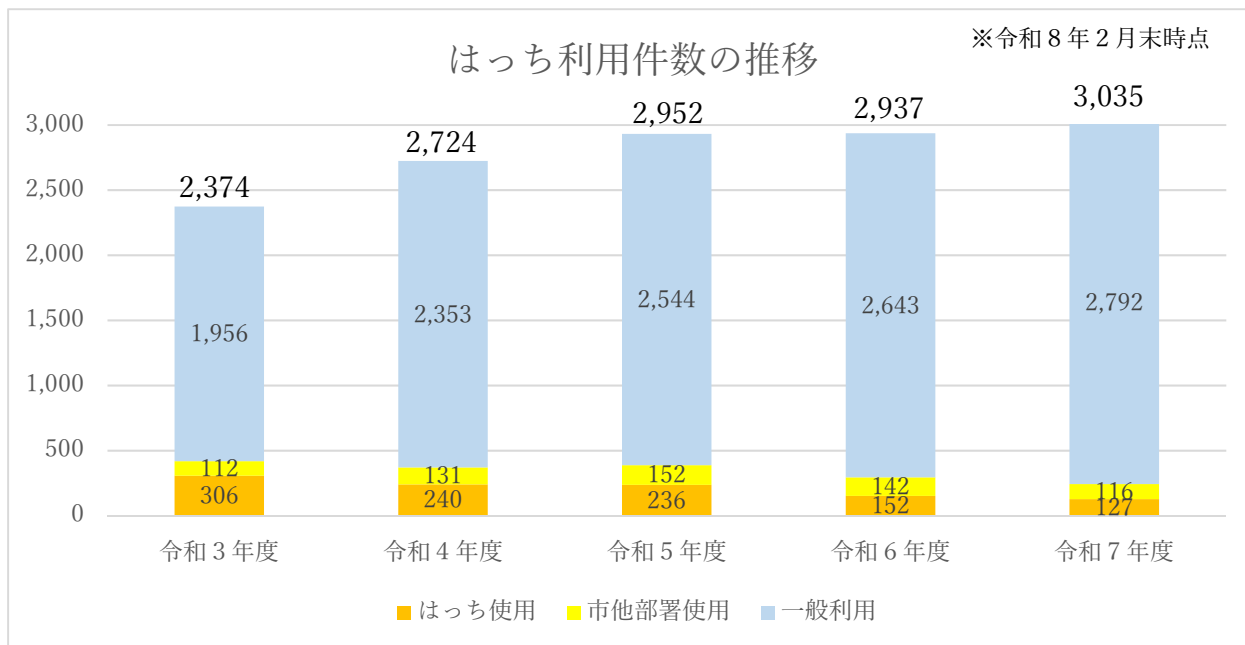


○令和5年度までマチニワに設置したWi-Fiに接続された機器のうち「5分以上6時間未満」の間で接続された数を抽出し、総務省公表のスマートフォン保有率で除した数値で図っていました。令和6年4月からはAIカメラによる補足人数をマチニワの来館者として採用することに変更しました。

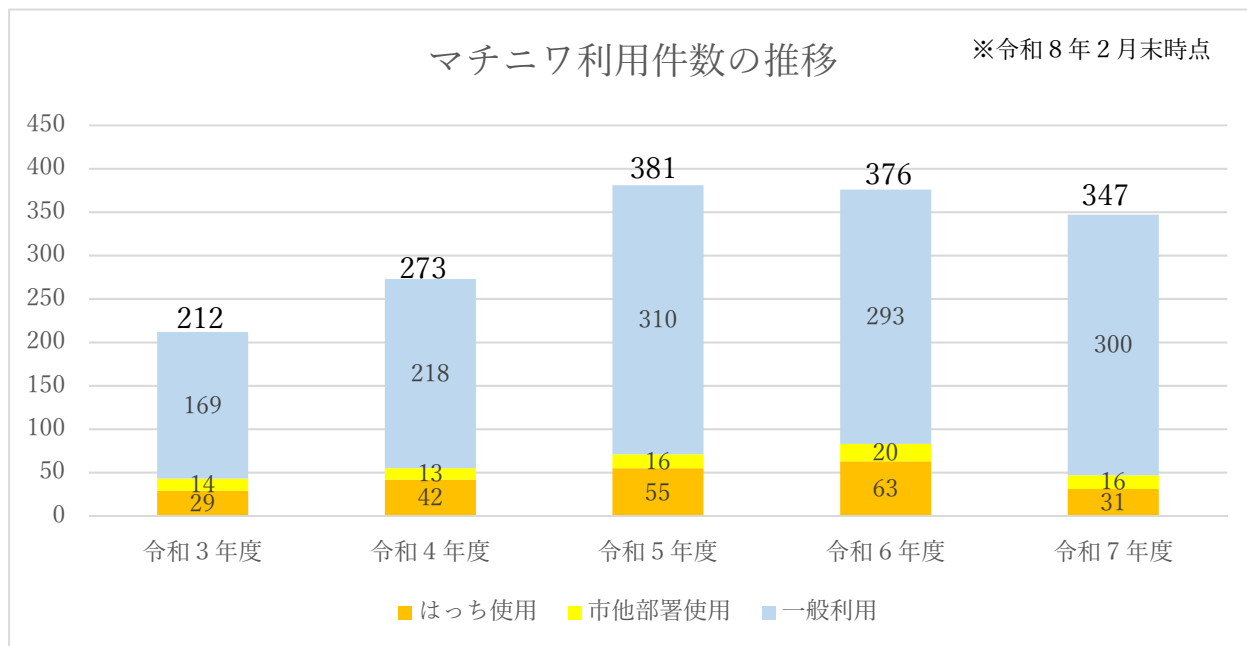


2. 施設利用件数の推移

○はっちの施設利用件数は、近年は横ばいで推移しているが、うち一般利用の件数はゆるやかに増加傾向です。また令和5年2月より窓口でのキャッシュレス決済を導入し、決済方法の幅が広がり、利便性の向上につながりました。

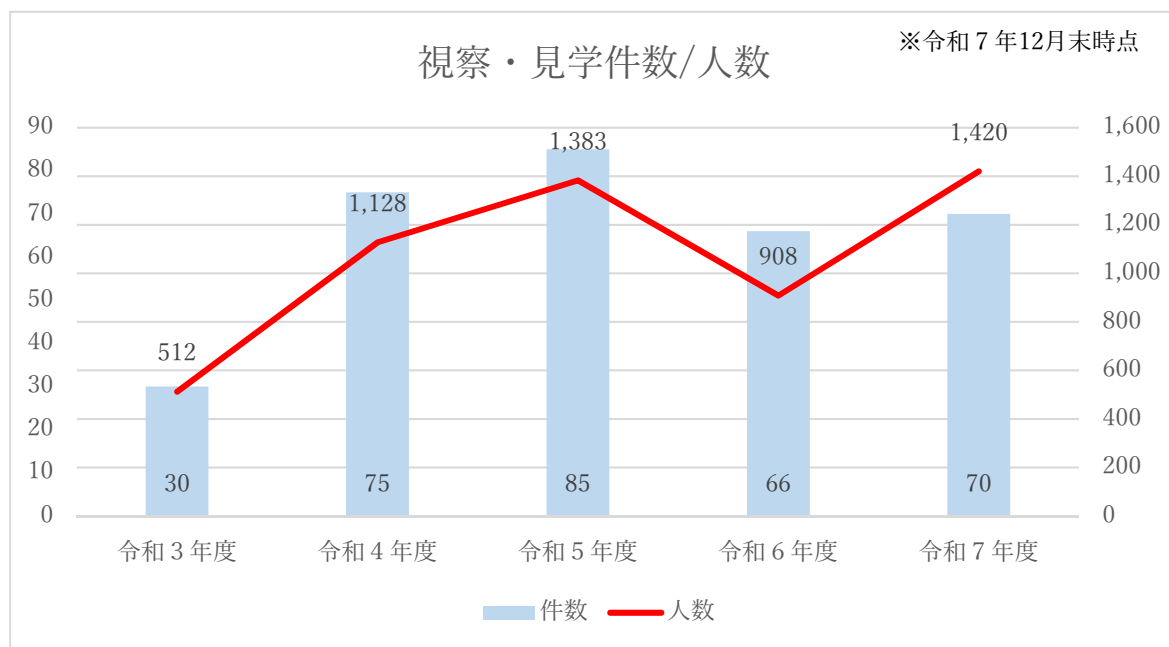


○マチニワの施設利用としてはステージイベントや大型ビジョンを活用したパブリックビューイング、キッチンカーの出店などに利用されています。利用件数は横ばいで推移しています。また令和4年度から一定条件を満たすと施設使用料を減免するマチニワイベント支援事業を開始しました。



3. 視察・見学の受入数の推移

○開館以来、はっちでは全国各地から数多くの視察を受け入れており、令和7年度12月末時点での累計数は1,541件となっています。視察件数は日経BP社による「全国自治体・視察件数ランキング2025（人口規模別ランキング10万～30万人未満）」で18位にランキングされるなど、全国的な注目を集めており、八戸のブランド力向上につながっています。



●視察・見学件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
合計	30	75	85	66	70
議員	5	13	19	16	11
教育機関	11	31	37	24	33
国・県・市	3	11	16	10	13
企業・経済団体等	8	4	5	9	7
ほか	3	16	8	7	6

●視察・見学人数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
合計	512	1,128	1,383	908	1,420
議員	28	99	102	150	89
教育機関	400	767	935	517	1,041
国・県・市	17	69	203	104	163
企業・経済団体等	54	15	25	33	38
ほか	13	178	118	104	89

4. 目指す「8つの未来」に沿った5年間の実績



(1) 多様な活動とコミュニティが息づく街

多様な人々によるアクティビティが生き活きとした未来を創ろう。

- 令和4年度から実施している「パフォーミングアーツ公演事業」は、のべ831人の観覧者がありました。また、出演団体が小中高校に出向いて実施する身体表現等のワークショップを14校で実施し528人に参加いただき、パフォーマーと子どもたちが学校の壁を越えてつながる動きがみられました。



- 令和5年度と6年度に実施した「舞台づくり学校」では、参加者はもちろん参加者の保護者同士もつながり、終了後も、はっちで開催される類似のイベントと一緒に参加するなど、継続的に芸術文化活動に関わるきっかけとなっています。



- 「まちぐみ事業」で定期的開催している「南部ひしぎし体験」に課題研究の授業の一環で参加した高校生が、何度か体験を重ねた後、指導者として参画しました。また、市民や組員から募集したアイデアを基に令和7年度に実施した「歩道補修促進事業」では、活動を知った補修材製造会社から使用法の指導をいただいたほか、組員のほか、まちづくり関係団体や商店街の関係者などのべ100名が活動に参加、メディアにも複数取り上げられ、まちづくり活動の広がりがみられました。幅広い世代の「やってみたいこと」に伴奏することで、機動力のある活動が実現できています。





(2) 創造的なチャレンジに開かれた街

クリエイティブな人が行き交い、新しいコトが起こる未来を創ろう。

- 「まちぐみ」での活動をステップに、環境問題に取り組む活動が生まれ、様々なイベントに出展するなど、さらなる展開につながった事例がありました。



- 「暮らし学アカデミー」の特別企画「大人に教えてみたいこと」では、これまでのべ14人の小中高校生が講師となりました。日常生活で学ぶ立場である子どもたちが教える立場になり、自分の得意分野を大人世代に伝えることで参加者に気づきを与えるとともに、新たな人材の発掘にも繋がりました。



- 市内高校生が「はっちサポーター」に登録し、館内ボランティアガイドとして活躍する例や、「舞台づくり学校」への参加をきっかけに、身体を動かすことや、表現することに興味を持ち、関連する習い事をはじめると、はっちの事業を通じて子どもたちの新たな活動につながる事例が生まれています。





(3) 顔の見える経済を大切にする街

地域が主役で、地域が潤う、顔の見える経済が回る未来を創ろう。

- 令和4年度から実施している、マチニワを会場とした飲食や物販を伴うイベント開催を支援する「マチニワイベント支援事業」では、飲食や物販を伴う62件のイベントを支援し、のべ601店に出店いただき、利用の少ない平日や冬期間にもイベントが開催されました。また、イベントには、のべ27,843人（主催者発表）にお越しいただき、閑散期においても中心街の賑わいを創出ができました（令和7年7月末時点）。



- 「マチニワイベント支援事業」は、3者以上による共同開催を条件としていることから、事業者同士のつながりが生まれました。多種多様なイベントが実施され、複数回実施するイベントもあり、継続的な開催による各団体の知名度の向上、企画力や経験値の向上にも繋がっています。



- 令和5年度に「マチニワイベント支援事業」を活用した、三八地域の若手農業者らによる「さんばちファーマーズマーケット」を開催されました。また、「八戸ハマリレーションプロジェクト」による「八戸夏やさいマルシェ&夏のブイヤベース」では、市内近郊農家による夏野菜の直売や市内レストランとタイアップした取組も生まれています。



○全国からの公募と中心街の個店が出展するクラフト市「暮らふとマーケット」は、令和4年度に実施して以降、年々出展希望者が増加しており、イベントの認知度や出展者側の満足度が高まっていることがうかがえます。また、令和6年度は、来館者数が同月土日祝日の1日平均の約1.8倍となり、賑わい創出も図られました。



○地域資源である横丁を舞台にした「オンリーユーシアター」は、令和6年度に15周年を迎えました。その間、東北ディステーションキャンペーンも実施され、また、八戸横丁月間として横丁で開催されるイベントを同時にプロモーションすることで、八戸の横丁の知名度の向上に貢献しています。



○「オンリーユーシアター」は、横丁の空き店舗のほかマチニワを会場にパフォーマンスを実施することで、若い世代や観光客にも楽しんでいただける企画となっており、令和6年度は、前年度比約1.5倍のチケット販売となりました。



○来年2月11日に開館15周年を迎えるにあたり、現在、南部裂織で織った布で館内リビングの椅子のカバーを制作するプロジェクト「南部裂織イスカバープロジェクト Re:CHAIR〜つないで、つなぐ、はっちの15年〜」を実施しています。制作にあたり、仕立てを専門としているものづくり入居者に型紙を製作してもらい、南部裂織を手掛けている入居者の指導のもと、市民と一緒に制作しています。3周年を記念して市民と一緒に制作した巨大なタペストリー「BIG 南部裂織」のように、日常的に使われることで多くの人に愛される作品となるように進めています。



○令和6年度から、マチニワで「ナイトマーケット」が開催されておりますが、郊外の人気店も参加し、夕食をテイクアウトする方やマチニワで楽しむ方々で賑わっています。自走化を目指し、今後も継続して開催していく予定です。





(4) 寛容と共生を価値とする街

異なる文化や価値観を持つ人が尊重し合い暮らす未来を創ろう。

- 共生社会プロジェクトとして令和6年度に初開催した「盆踊りディスコ」では、市内福祉施設や養護学校と企画段階から連携したことから、単なる参加者としてではなく、事業のパートナーとして継続した関係を築くことができました。



- 令和6年4月に障害者差別解消法が改正されたことを受け、スタッフを研修に派遣するなど、積極的な取組を行ったことをきっかけに、国際障害者交流センター（愛称：ビッグ・アイ※1）より協力依頼を受け、同年11月に、障害の有無等を問わずに参加できるダンスイベント「DANCE CARAVAN IN AOMORI CATCH THE BEAT」（主催：ビッグ・アイ）をシアター2で実施することとなりました。八戸市のヒップホップダンサーのRINKAさんもワークショップの講師として参加しました。

※1 障がい者が主役の芸術・文化・国際交流活動の機会を創出し、障がい者の社会参加を促進するため、厚生労働省が2001年に開設した施設。本拠地は大阪府堺市。



- 令和5年度から、多言語観光情報サイト「Guidoor」を活用し、はっちの概要や館内展示の多言語での情報発信をしています。QRコードを読み取ることで8つ言語での案内が可能です。





(5) 伝統が誇らしく受け継がれる街

先人が築いてきた固有の文化がしっかりと受け継がれる未来を創ろう。

- 「伝統工芸プロジェクト」や「AIR 事業」などで、「南部菱刺し」や「南部裂織」、「スケート」、「騎馬打毬」、「食用菊」などの伝統工芸や地域の文化をテーマにしたプロジェクトを実施し、地域の魅力を再発見する機会を創出できました。



- 令和6年度に実施した「天羽やよい展」では、12日間の会期中に約2,400人という多くの来場者に来ていただいたほか、トークイベントではキャンセル待ちとなるなど、南部菱刺しに対する関心の高さがうかがえました。



- 八戸三社大祭や八戸えんぶりなどの八戸を代表するお祭りの時期に合わせて「おまつり連携事業」を実施し、祭りに対する愛着醸成及び観光客への祭りの魅力の発信を実施しました。八戸三社大祭では、テーマを絞って歴史を伝える特集展示や公開講座、はちのへ山車振興会の協力・協賛でマチニワでの山車展示をしています。また、小太鼓体験をできるコーナーを設置したほか、山車の展示期間中は、山車組のお囃子の公開練習をし、お囃子や引き子の募集に協力するなど、関係団体と連携し、祭りの継承に力を入れています。



○八戸えんぶりの期間は、参加団体によるマチニワでのステージ公演を実施していますが、多くの方に喜んでいただいています。また、衣装を着て写真撮影をできるコーナーの設置、市内大学と連携した八戸ブイヤベースの提供等観光客も楽しめる企画を実施しています。



○市民活動支援事業として毎年開催している「はっちがずっぱど南部弁」の各企画を通して、南部弁の魅力発信を行うことで、南部弁が廃れ行くことへの危機感の共有を行っています。





(6) 子育てが楽しくなる街

大人も一緒に成長しながら地域で子どもを育てる未来を創ろう。

- 「こどもはっち」では、事業受託者の NPO 法人はちのへ未来ネットによる親子で楽しめるイベントや相談事業等が多数行われ、年間約 3 万人の利用者に活用いただいております。子育て世代の市民にとってなくてはならない場所として親しまれています。また、高校生ボランティアの活躍や市内外の高校と連携した企画実施など、世代間交流も促す貴重な施設となっています。



- 自主事業に合わせ、マチニワでの段ボール迷路と積み木を楽しむ空間づくりを創出したほか、親子で参加できる「はっちガーデンお手入れ隊」などを実施しました。令和 6 年度は、具材となって巻かれる「人間のり巻き」体験を AIR 事業で実施し 257 名に参加いただきましたが、親子で一緒に巻かれる参加者も多数おりました。





(7) 緑を豊かに育む街

潤いをもたらす緑が身近にあふれる未来を創ろう。

- 「グリーンプロジェクト」では、はっち屋外やマチニワのプランターの植え替え作業を市民と一緒に実施することで、まちの景観に関心を持ち、はっちやまち全体への愛着醸成が図られています。



- 開館当初より、壁面やはっちコートの緑化等を試み、屋外の植栽やプランター設置等と併せて建物の緑化に努めてきましたが、冬季に枯れたり、自動散水機能が経年劣化等で使用できない状況にあります。このような中、地元商店街やロータリークラブなど、中心街の緑化に取り組む団体と連携・協力して、花小路や三日町・十三日町沿いの緑化活動に協力し、中心街の緑化活動（花小路大作戦、八戸中央ロータリークラブや東高校インターアクトクラブ等）と協力しながら屋外緑化活動が継続されていることから、市民と一緒に緑化をすすめる取組を進めていきたいと考えています。





(8) 情報の発信とアクセスに優れた街

メディアを活用した街の情報の受発信で、ヒト・コト・モノがつながる未来を創ろう。

- 令和3年度から実施している「アンブレラスカイ」は、映えスポットを創出するだけでなく、忘れ物の傘に親子でペイントをするワークショップ「アンブレラスカイ デコレーションワークショップ」を開催しており、市民と一緒に作りあげる企画として評価が高く、JR との企画連携で同時期に JR 本八戸駅にも傘が飾られました。また、事業者からの提案で、「津軽びいどろ」をイメージした傘を提供いただき、館内で展示をし、1階のショップで販売するなど広がりが生まれています。



- 外国人来館者も増えており、多言語観光情報サイト Guidoor で多言語による観光案内を提供しているほか、英語での案内の勉強にも取り組み、積極的に英語での案内を実践しているボランティアガイドもいらっしゃいます。

- 地元の八戸ですてきなデザインのチラシを作っているのが嬉しいというお客様からの声や、東京の店舗に置かれていた「はちみつ」を見てはっちを知り、実際に来館してくれたお客さまがいるなど、はっちや八戸市の PR に貢献しています。



【その他の成果・効果】

- はっちの企画や運営に携わり卒業していったコーディネーターは、はっちで培った経験や人的ネットワークを生かし、芸術文化、まちづくり、観光、報道など多岐にわたる分野で活躍しています。また、ものづくりスタジオに入居していた方々は、入居中に培ったノウハウを生かし、それぞれの分野で活躍されています。
- 学生時代にはっちの事業に関わったり、はっちのリビングで勉強していた方がコーディネーターとして U ターン就職しています。学生時代にはっちに関わることで、まちづくりや文化芸術に関心を持ち、遠方で学んだ後に地元で活躍する人材が育っています。
- 先日公表された「日経 BP 総合研究所の全国自治体・視察件数ランキング」における、10 万から 30 万人未満の人口規模ランキングで、はっちとブックセンターがともに第 18 位、美術館が第 28 位となるなど、トップ 30 の中に、1 つの市で 3 つの施設がランクインしているのは当市だけであり、多くの行政関係者や文化関係者が視察に訪れています。
- はっちを訪れた視察者からは、観光客だけでなく、子どもから学生、高齢者といった幅広い世代が利用している様子に他の施設にはない光景であると驚いていけます。
- 平日中は、国内外からの観光客やバス待ちの方、こどもはっちを利用する親子で賑わい、平日の夕方は勉強や友人と語らう高校生で賑わっています。また、市内高校の卒業生から「はっちで勉強したことが高校時代の良い思い出となっている」という声もいただいております、はっちが高校生の居場所となっています。
- 館内に設置している「ご意見シート」では、「はっちはとても居心地良く、ずっと居られる。自分の近所にもこんな施設が欲しい」「館内が清潔で展示物やテーブル、イス、その他の配置も工夫されていて、様々なイベントも企画されていて充実している。飲食コーナーもあり、他にはない施設だと思う」といった意見もいただいております。
- 館内の持ち込み飲食について、勉強のために施設を利用する学生をはじめとした来館者の声を受けて、令和 7 年 4 月からペットボトルなど蓋つきの容器に入ったものを持ち込めることとしました。
- 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、開館間もなかったにも関わらず、多くの避難者がありました。また、令和 7 年 12 月 9 日に発生した青森県東方沖地震でも、約 80 人が避難しました。はっちは指定避難所ではありませんが、災害時に受け入れてくれる安全で安心な施設であるという認識が定着しています。

5. 目指す「8つの未来」に沿った評価と今後の取組



○はっちの事業に関わったことをきっかけに、三陸国際芸術祭などが開催されるなど市民主体の活動が生まれています。今後も、はっちがまちづくりや創造的活動の拠点となるよう、市民活動をサポートする事業として、市民公募型事業やマチニワイイベント支援事業を継続するほか、市民の新しい活動の支援に取り組みます。



○令和6年4月1日、改正障害者差別解消法が施行されたことに伴い、障害のある人もない人も共に参加できる環境を整えるため、令和6年度から「盆踊りディスコ」を開催しています。今後は、個々の場面で柔軟な対応ができるよう、スタッフ間でも課題を共有してまいります。



○南部菱刺しの作品展「天羽やよい展」には多くの来場者が市内外から訪れたり、15周年記念事業の南部裂織イスカバープロジェクトにはのべ100人以上の方に参加いただくなど、伝統工芸への関心は高いと感じています。はっちの役割は、多種多様な伝統芸能の技や作り手を紹介することにより、その魅力を発信していくことであることから、今後も、地域の作家や伝統工芸への興味・関心を喚起する事業に取り組んでまいります。



○「こどもはっち」は中心街にある子育てセンターであることから、施設を利用するだけでなく利用する親子がまちづくりに参画し、次の世代につなげていく仕組みづくりに取り組んでまいります。



○自主事業の集客、入居テナントを含めた施設情報、八戸の観光のポータルとして観光客に役立つ情報、施設を借りる方への情報の提供など、多くの人にとって利用しやすい施設となるよう、情報発信機能の強化が必要であると考えています。今後、貸館の利用促進のため、初めて利用する方にもわかりやすい利用案内、八戸の入り口として市内の観光情報の提供、カフェやショップなどのテナント情報など、多くの方によって開かれた施設となるようホームページの改修など情報発信に力を入れてまいります。